

君の未来を体感しよう！海洋産業フェスタ in Nagasaki

成果報告書

特定非営利活動法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会

2016年10月

要旨

本報告書は、特定非営利活動法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会（以下：クラスター協議会）が（公益財団法人）日本財団様より助成を受け、2016年7月16日（土）から18日（祝：海の日）に長崎県美術館にて実施したイベント、海洋産業フェスタ in Nagasaki の成果についてまとめたものである。

現在、長崎県下では浮体式洋上風力発電施設の建設や潮流発電実証実験の実施など、海洋再生可能エネルギーを中心とした海洋産業の取組みが盛んに行われている。その一方で、一連の動きは長崎県下に広く知られているとは言えず、また、将来、それら産業を担う人材の発掘、育成も広く行われていない状況にある。海洋産業の発展には人材育成とその供給が重要であり、そのためには長期的な取り組みが必要であった。

今回のイベントでは対象を大きく2つ設定し実施した。一つは広く県民の方々であり、もう一つは小学生～大学生世代とした。県民の方々に対しては、海洋産業の現状とその発展可能性を長崎で起こりつつある様々なプロジェクトを交えながら伝えることとした。小学生～大学生世代に対しては、海洋産業への興味を喚起し、近い将来、それら産業へ就きたいと思ってもらうことを意図した。

イベントとしては、3日間ののべ入場者数が7,254名を数え、メディアにも多数取り上げられた。場所が長崎県美術館（長崎市出島町2-1）と比較的アクセスが良く、また、海の日を挟んだ3連休に設定できたことが大きかったと考えられる。具体的なメディア露出状況としては、テレビ8回、ラジオ1回、新聞報道6回となった（2016年8月現在）。イベント当日のアンケートでは、小学生を中心に将来、潜水士や研究員、未来の海のお仕事などに就きたいとの回答結果を得られ、当初目論んだ目的は一定程度達成できたと考える。

一方で、今回のイベントでは幸運にも3日間ともに晴天に恵まれたが、季節柄、台風など暴風雨も想定され、それらの場合にも目的が達成できたのか不明な部分も残った。また、ボランティアスタッフなど多数の協力を頂いたが、それらの運用において不備が残る部分もあった。個別イベントにおいては、ROV操縦体験やROV製作ワークショップなど、ROV関係は機器の整備状況によってイベント実施の可否などが大きく左右されることもあり、断続的に参加者に体験してもらうには課題が残った。また、ソーラーボート操縦体験やペットボトル洋上風車製作ワークショップなど、一部イベントは受け入れられる人数に限りがあり、多数の参加できない人が発生した。今後もイベントを行う場合には、どのような受け入れ態勢とするかが課題である。加えて、企業が各社のPRを行うために設けた企業ブースについては、今後さらに多くの企業が参加してもらえる工夫が必要である。

なお、今回のイベント開催にあたっては、多数の自治体様、独立行政法人様、企業様、経済団体様、学会様から協賛、協力、後援を頂きました。特に、資金面では多額のご協賛を頂きました。皆様からのご支援がなければイベントの成功はおぼつかなかったと思います。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

1. 背景

長崎県はわが国全都道府県の中で最も島が多く、また、海に入り組んだ地形など地理的特性から伝統的に海洋産業が発達してきた。とりわけ水産業や造船業は県内の主要産業であり、それら伝統的な海洋産業に加えて、近年、浮体式洋上風力発電設備などに代表される海洋再生可能エネルギー導入の機運が高まっている状況にある。国際的にも潮流、深海、海底など従来利用されてこなかった様々な海洋資源の活用技術が開発されつつあり、「海洋県・長崎」にとってこれら新たな海洋資源の活用は、地の利を生かした発展性に富む将来有望な地場産業となる可能性を秘めている。

2007年に成立した海洋基本法に基づき作成される海洋基本計画のうち、2013年4月に閣議決定した「新海洋基本計画」では、海洋再生可能エネルギーの技術開発について重点的に取り組むとともに、実用化、事業化の推進が謳われた。同じく2013年には長崎県は「ながさき海洋・環境産業拠点特区」に指定され、それに基づき造船業が有する高い技術力を活かしながら、高付加価値船や省エネ船の建造促進と海洋エネルギー分野における海洋関連産業の拠点づくりを進めている。

さらに、2014年7月には長崎県下の三海域が、内閣官房総合海洋政策本部より浮体式洋上風力発電および潮流発電の実証試験を行う海洋再生可能エネルギー実証フィールドに指定された。それを受け、長崎県内の企業などを主として構成されるクラスター協議会（当時は任意団体）もNPO法人に移行、海洋再生可能エネルギーに関する新事業創出と実証フィールド関連事業への参入をより積極的に進めることとなった。

【設立手続】平成26年3月19日（任意団体）

【法人登記】平成26年10月10日（NPO法人）

【期 間】 5年間

【事務所】 〒850-0862 長崎市出島町1-43 D-FLAG TEL (095) 893-8251

【理事長】 協和機電工業(株) 代表取締役会長 坂井 俊之

【副理事長】 不動技研工業(株) 取締役会長 小松 雄介

【副理事長】 学校法人長崎総合科学大学 学長 木下 健

【役員】 理事12名 監事 2名

【会員】 (平成28年7月現在) 正会員55社 賛助会員18社

○特別会員（年会費100万円） 8社

協和機電工業・不動技研工業・大石建設・扇精光コンサルタンツ・西海建設・本間建設・渋谷潜水工業・後藤運輸

○一般会員（年会費6万円） 47社

長崎25社・佐世保9社・諫早4社・五島3社・西彼杵3社・東京2社・大阪1社

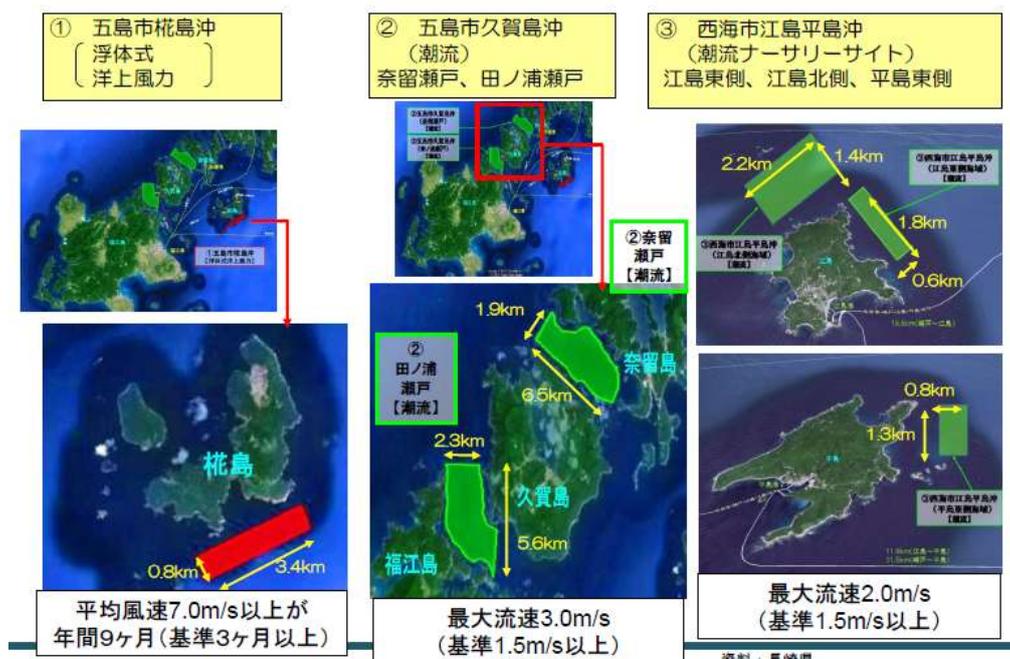
○賛助会員（会費なし） 18社

三菱重工業（株）長崎造船所・三菱電機（株）長崎支店・EMEC・日本海事協会ほか

図. 特定非営利活動法人 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会概要

一方で、五島周辺海域では政府事業を活用した海洋再生可能エネルギーに関する実証事業も広く行われている。平成 22 年からは環境省事業「洋上風力発電実証事業」が五島市栂島沖において行われ、平成 28 年 3 月に同実証事業は終了した。その後、実証事業で製造された浮体式洋上風力発電装置は五島市崎山沖に移設され、現在、商業運転に入っている。また、平成 26 年からは NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）による着底式潮流発電実証事業が行われ、周辺海域でも調査が行われた。その他、浮体式洋上風力発電装置や潮流発電に関する研究開発が長崎県下では広く行われている。

このように、長崎県下では海洋再生可能エネルギーに関する取り組みが地元関係企業や大学等によって行われているが、広く県民一般に知られておらず、将来に渡って海洋産業を支えていくためには、裾野を広げた人材育成が必須である。そこで、海洋産業の新たな展開を理解していただく場を設けるとともに、将来の海洋産業を担う人材を発掘・育成する機会づくりの取り組みを行うこととなった。



2. 海洋産業フェスタ in Nagasaki 概要

本年度、実施した海洋産業フェスタ in Nagasaki の概要について以下に示す。

イベント名称	日本財団助成 君の未来を体感しよう！海洋産業フェスタ in Nagasaki
開催日時	2016年7月16日（土）より18日（祝：海の日） 各日10時より20時まで（最終日のみ19時まで）
開催場所	長崎県美術館（長崎市出島町2-1）
主催	NPO 法人 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会
共催	公益財団法人 日本財団
協賛	長崎商工会議所・長崎都市経営戦略推進会議・長崎経済同友会・日本海事協会・安達(株)・大石建設(株)・扇精光コンサルタンツ(株)・オープンハイドロ/DCNS・粕谷製網(株)・門田建設(株)・九電みらいエナジー(株)・協和機電工業(株)・光和興業(株)・国際航業(株)長崎支店・後藤運輸(株)・西海建設・崎永海運(株)・(株)渋谷潜水工業・(株)十八銀行・西部環境調査(株)・東亜非破壊検査(株)長崎営業所・東京産業(株)長崎支店・(株)長崎経済研究所・長崎ジーエス(株)長崎船舶装備(株)・(株)西日本流体技研・(株)ヒグチコーポレーション・(株)フグロジャパン・不動技研工業(株)・本田商會(株)・(株)吉本ハイテック・(株)渡辺造船所
協力	長崎県・長崎市・五島市・長崎大学・長崎総合科学大学・佐世保工業高等専門学校・海洋研究開発機構・石油天然ガス・金属鉱物資源機構・日本風力エネルギー学会・戸田建設(株)・三菱重工業(株)長崎造船所・(株)風力エネルギー研究所
後援	長崎県教育委員会・長崎市教育委員会・長崎新聞社・西日本新聞社・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・日本経済新聞社・日刊工業新聞社・NHK長崎放送局・NBC長崎放送・KTNテレビ長崎・NCC長崎文化放送・NIB長崎国際テレビ・FM長崎・NCM長崎ケーブルメディア
WEBサイト	http://ksf-n.com/
Facebook サイト	https://www.facebook.com/%E6%B5%B7%E6%B4%8B%E7%94%A3%E6%A5%AD%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%B9%E3%82%BF-in-Nagasaki-%E9%95%B7%E5%B4%8E%E6%B5%B7%E6%B4%8B%E7%94%A3%E6%A5%AD%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC%E5%BD%A2%E6%88%90%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%8D%94%E8%AD%B0%E4%BC%9A-1630919380569508/

本イベントは以下の2つの目的を設定し、同時並行で実施した「長崎海洋大使・海外先進地派遣事業」とコラボレーションすることで目的達成を狙い実施した。それら目的達成のために、具体的に以下4つの目標を設定した。

【目的①】 広く県民の方々に対し、海洋産業の現状と発展可能性を周知する

【目的②】 小学生～大学生の世代に対し、海洋産業への興味を喚起し、近い将来の人材確保と継続的な人材育成につなげる

- 目標 (1) 中学生以下の世代およびその親御様、のべ 1500 人以上に対し、長崎で進みつつある海洋産業の将来性に気付く場を設け、海洋産業の今と未来を伝える。
- 目標 (2) 高校生、大学生 500 人以上に対し、同年代の活躍を見せ、近い将来、海洋産業分野で働きたいと思えるようなマインド形成を図る。とりわけ県内の高校生、大学生から「長崎海洋大使」を発掘、欧州の先進地に派遣し、その成果を同世代に広く共有する。
- 目標 (3) 新聞、テレビ等のメディア複数社に取り上げていただき、県民が海洋産業について知りたいと思う機会を設ける。
- 目標 (4) 今後、海洋産業人材を継続的に育成するための課題を抽出し、目的達成に向けた効果的な企画のあり方を明らかにする。

これら目標達成に向け、海洋産業フェスタ in Nagasaki では以下4つの取組みを行った。併せてイベントスケジュールならびに会場図を以下に示す。

- ① 海洋産業の今と未来に関する展示を「海のおしごと体験館」(パネル・模型・映像など)にて実施
- ② 企業の海洋関連技術、大学等の研究活動の紹介として「海洋関連企業・大学ブース」の展開
- ③ 体験 & ワークショップとして以下
 - 水中ロボット (ROV) 操縦体験
 - ソーラーボート試乗操縦体験 (小学生対象)
 - 潜水土体験
 - 溶接技術シミュレーション
 - 操船技術シミュレーション
 - ミニ風力発電装置づくり (小学生対象)
 - 水中ロボット (ROV) キット制作 (中高生対象)
- ④ 長崎の高校・大学生 (海洋大使) とロボット博士によるトークイベント 「海の未来を語ろう! 出島海洋塾」を実施

日本財団助成 海と日本プロジェクト
 ぎみの未来を体験しよう！海洋産業フェスタ in Nagasaki 会場別プログラム

	エンタランスロビー (チャラリー棟1F)	ホール (チャラリー棟2F)	講座 室 (チャラリー棟2F)	アトリエ (チャラリー棟2F)	運河ギャラリー (美術館棟1F)	運河劇場 (屋外)	運河(1) (三角広場横)	運河(2) (常盤運河)
7月 16日 (土)	「ちきゅう」 大型模型展示 9:30 受付 10:00 オープニングセレモニー 10:30 終了 10:40 マスメディア ア種取材	10:00 オープン 「海のおしごと 体験館」 20:00 終了	13:00 ROV製作ワーク ショップ (海洋クラスター) 16:00 終了	10:15, 11:15, 13:15, 14:15, 15:15, 16:15 ハットボトル風車 づくりワークショップ 17:00 終了	海洋関連 企 業・大学プー ス ① 安運興 ② 大石建設機 ③ オープンハイ FO/DONS ④ 昭和機工重機 ⑤ 西武建設機重機 ⑥ 戸田建設株 ⑦ 長崎大学海洋・ 未来イノベーション 機構 ⑧ 長崎総合科学大 学・海洋エネ ギー研究センター ⑨ クラスター部 議会/長崎県	10:00 潜水士体験 17:00 終了	10:00 ROV 体験 17:00 終了	10:00 ソーラーボート 体験 16:00 終了
7月 17日 (日)	「ちきゅう」 大型模型展示	10:00 オープン 「海のおしごと 体験館」 20:00 終了	10:00 ROV製作ワーク ショップ (海洋クラスター) 16:00 終了	10:15, 11:15, 13:15, 14:15, 15:15, 16:15 ハットボトル風車 づくりワークショップ 17:00 終了		10:00 潜水士体験 17:00 終了	10:00 ROV 体験 17:00 終了	10:00 ソーラーボート 体験 16:00 終了
7月 18日 (月・ 海の日)	「ちきゅう」 大型模型展示	10:00 オープン 「海のおしごと 体験館」 19:00 終了	10:00 ROV製作ワーク ショップ (海洋クラスター) 12:00 終了 14:00 「海の未来を語る ろう！出島海洋塾」 15:40 終了	10:15, 11:15, 13:15, 14:15, 15:15, 16:15 ハットボトル風車 づくりワークショップ シヨップ (五島市・風力エネ ルギー学舎) 17:00 終了	18:00 終了	10:00 潜水士体験 17:00 終了	10:00 ROV 体験 17:00 終了	10:00 ソーラーボート 体験 16:00 終了

図. 3日間のイベントスケジュール

3. 海洋産業フェスタ in Nagasaki イベント詳細

海洋産業フェスタ in Nagasaki にて行った各種イベント、取り組みについて以下に示す。

●オープニングセレモニー

・日時：2016年7月16日（土）10:00～10:30

・実施内容：海洋産業フェスタの開催初日、10時より関係者が集まったオープニングセレモニーが行った。海洋産業フェスタ in Nagasaki を主催する NPO 法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会より坂井理事長、また共催者である公益財団法人日本財団の海野常務理事様のご挨拶のあと、来賓を代表し長崎県知事（代理：古川産業労働部長様）よりご祝辞を頂いた。その後、ドライスーツを着た潜水土、水中探査ロボット、海洋少年団のお子様も参加した、海洋産業フェスタに相応しいテープカットを行った。オープニングセレモニーには関係者を中心におよそ 100 名が参加、フェスタの開催を祝った。



図. 海洋産業フェスタ in Nagasaki オープニングセレモニーの様子
(左：日本財団海野理事様のご挨拶、右：テープカット)

●海のお仕事体験館

・日時：2016年7月16日（土）～18日（祝：海の日）各日 10:00～20:00（最終日のみ 19:00 まで）

・実施内容：長崎にゆかりのある海のおしごとについての解説、また体験を通じて長崎の海の産業について知ってもらう展示会場を設けた。美術館の開館時間である朝 10 時より夜 8 時まで開館し、大きく 7 つのテーマについて各テーマについて企業ならびに大学の皆様にご担当頂いた。なお、今回取り上げたテーマは以下の通りである。

- ・水産（ブース協力：長崎大学水産学部および漁業者）
- ・潜水土（ブース協力：渋谷潜水工業）
- ・水中ロボット研究（ブース協力：長崎大学工学部）
- ・造船・溶接体験（ブース協力：長崎総合科学大学工学部）
- ・船舶操縦体験（ブース協力：長崎総合科学大学工学部）

- ・海洋資源探査（ブース協力：JAMSTEC ならびに JOGMEC）
- ・海洋再生可能エネルギー（ブース協力：戸田建設、オープンハイドロ社）。

また、体験館出口には、展示を通して将来やってみたいおしごとをアンケート形式で投票してもらった。



図. 海のお仕事体験館の各ブースの様子

（上左：海のお仕事体験館アンケート、上右：水中ロボット展示）

（中左：水中鉱物資源展示、中右：溶接シミュレーション体験）

（下左：水中資源探査船模型展示、下中：海洋再生可能エネルギー展示、下右：潜水土展示）

海洋産業フェスタ in Nagasaki

〔ホール展示レイアウト案〕

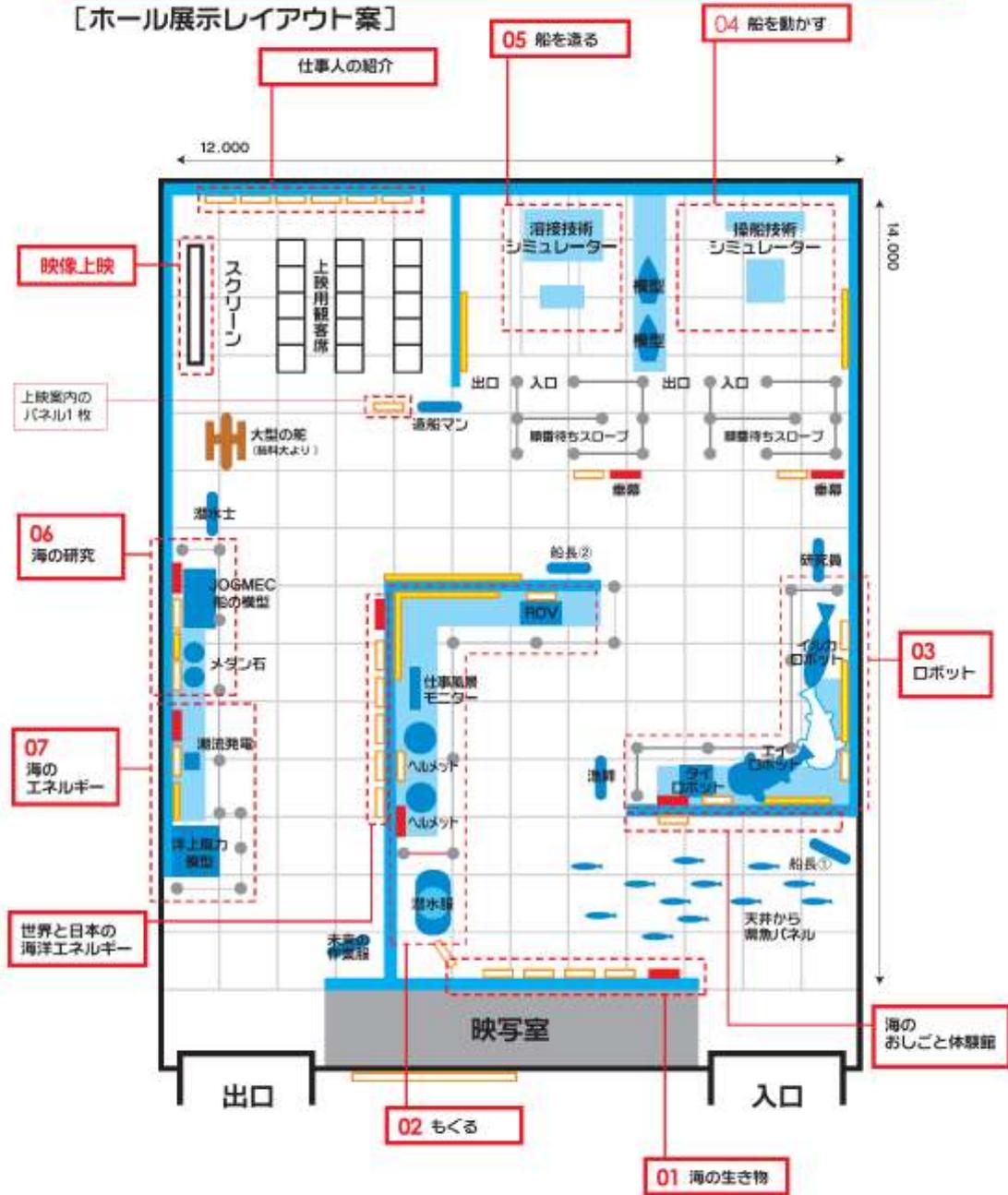


図. 海のお仕事体験館 展示会場図

●海洋関連企業・大学ブース

・日時：2016年7月16日（土）～18日（祝：海の日）各日10:00～18:00（最終日のみ17:00まで）

・実施内容：長崎の海洋産業にゆかりのある企業、大学に出展頂き、それぞれの活動をアピールしてもらう場を設けた。ターゲットとしては高校生、大学生ならびに、親子連れ、ご家族で来られている親御様を対象とし、将来就きたい仕事を探してもらうキッカケとなることを目指した。スペースの都合から今回は10社・団体の出展となったが、多くの方が熱心に担当者のお話を聞いていた。なお、今回参加された企業・大学は以下の通りである。

- ・ オープンハイドロ社/DCNS社
- ・ 戸田建設
- ・ 大石建設
- ・ 西部環境調査
- ・ 安達
- ・ 協和機電工業
- ・ 長崎大学海洋・未来イノベーション機構
- ・ 長崎総合科学大学海洋エネルギー研究センター
- ・ 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会および長崎県



図. 海洋関連企業・大学ブース（左：ブースの様子、右：フランスより来られた DCNS ならびにオープンハイドロ社の担当者）

●水中ロボット (ROV) 操縦体験

・日時：2016年7月16日(土)～18日(祝：海の日) 各日10:00～17:00

・実施内容：最先端の海洋産業を体験する場として、今回の海洋産業フェスタ in Nagasaki の目玉イベントに位置づけ企画したのが、水中ロボット (ROV) 操縦体験である。今回のイベントを行う長崎県美術館のすぐ横にある運河に、研究や仕事の第一線で活躍 ROV を持ち込み、子ども達に実際に操縦をしてもらった。運河の中に ROV を潜らせ、また、ROV に取り付けられたカメラを通して送られる映像を見ながら遠隔で操作をした。ROV 自体は操縦場所からも見られることから、画面を見て動かした感覚と、実際のロボットの動きの比較することで、三次元操作の難しさなども体感してもらった。なお、イベントは佐世保工業高等専門学校ならびに長崎大学工学部にご協力頂いた。



図. ROV 操縦体験ブース (左：ブースの様子、右、画面を見ながら遠隔操縦体験の様子)

●ソーラーボート操縦体験

・日時：2016年7月16日(土)～18日(祝：海の日) 各日10:00～16:00

・実施内容：長崎県美術館横の運河を使い、ソーラーボートを操縦する体験イベントを実施した。水面スレスレのところでは実際の船を操縦し、海を身近に感じ海に親んでもらうと共に、船を操縦するという仕事に興味を持ってもらいたいとの趣旨にて行った。日照の都合から、各日16時までの開催となったが、3日間で300人以上の子供たちに操縦を体験してもらった。船長の帽子をかぶり楽しく操縦する子供さんから、おそろおそろ乗り込み、慎重に操縦桿を握る子供さんまで、それぞれが楽しみながら操縦体験を行った。なお、ソーラーボートは長崎総合科学大学の学生らが手作りしたもので、今回のイベントにおいても同大学の全面的な協力によって実施することができた。



図. ソーラーボート体験の様子

●潜水士体験

・日時：2016年7月16日（土）～18日（祝：海の日）各日 10:00～17:00
・実施内容：実際の潜水士が使っているヘルメットをかぶり、潜水士気分を味わうイベントを実施した。最新のヘルメットには通信機能もついており、兄弟で弟さんは実際にヘルメットをかぶり、お姉さんは離れたところにある通信機から話をして会話をするような体験など、海の中でお仕事をしている感覚も感じてもらった。同時に、かつて潜水士が使っていた旧型ヘルメットも準備し、希望者にはかぶって体験してもらうことで、昔の潜水作業の大変さも体感してもらった。体験を通して、「実際に海に潜った気分になった」などの声が聞かれると共に、お子様と一緒にヘルメットをかぶられた親御様などもいらっしやった。なお、潜水士体験イベントは株式会社渋谷潜水工業様の全面的なご協力によって実施することができた。



図. 潜水士体験イベント

（左：最新の潜水ヘルメットを体験する様子、右：旧型ヘルメットを体験する様子）

●ミニ風力発電装置づくり（ペットボトル風車製作ワークショップ）

・日時：2016年7月16日（土）～18日（祝：海の日）各日 10:00～17:00
・実施内容：長崎で進みつつある浮体式洋上風力発電設備を、実際に作ってみることで慣れ親しんでもらうためのワークショップを実施した。ワークショップでは羽の枚数をそれぞれ子供たちが自分たちの感性で切り、風車を製作した。各回、10人前後×1日6回（1回1時間）を予定していたが開催初日にテレビ放映された影響で多数の参加者が集まり、2日目以降は各回15人前後で実施することになった。そこで、当日予約制とすることで参加者の調整を行ったが、最終日は参加できない子供が多数発生した。なお、事前には260人分の風力発電キットを準備した。

子供たちにはあらかじめペットボトルを1つ持参してもらい、それを浮体部用とした。車用ペットボトルは運営側で準備した。子供たちが作る風車は、一般的に見られる3枚翼の風車から8枚以上の翼を持つ風車まで、また、良く回るものから、全く動かないものまで様々なものが作られた。風車が出来た後は五島の浮体式洋上風車と同じような浮体部を持

参頂いたペットボトルで作り、それぞれが作った風車と組み合わせて実験を行った。ワークショップ後には戸田建設様のブースを訪れ、本物について教えてもらうなどの光景もみられ、海洋再生可能エネルギーを身近に感じるきっかけになったように思う。なお、本ワークショップは五島市、日本風力エネルギー学会、風力エネルギー研究所の各位よりご協力を頂き実施した。



図. ミニ風力発電装置づくり（ペットボトル風車製作ワークショップ）の様子
（左上：講師による浮体式洋上風車の説明、右上：ワークショップ参加者による集合写真）

（左下：作った風車を扇風機によって回す様子、右下：親子の参加者）

●水中探査ロボット（ROV）製作ワークショップ

・日時：2016年7月16日（土）～17日（日）各日10:00～15:00

・実施内容：米国の!nventivity社製教育用ROVを用い、ROVの組み立て、および組み立てたROVを長崎県美術館横の運河で動作実験を行うワークショップを実施した。小学生から高校生まで幅広く参加し、自分たちの手で製作したROVを実際に操縦する事で、その原理を直感的に理解してもらった。ROVの構造はシンプルで、塩化ビニルの枠組みに3つのモーターとスクリュー、浮力材、重りがつく構造となっている。リモートコントロール装

置よりモーターの回転方向を調整する事で、自由自在に運河を航行した。

自分で作ったロボットが動かすことは思った以上の感動を呼び、長い時間操縦を試みる生徒、学生や、原理を知るために何度か足を運ぶ中学生などもいた。本ワークショップは関係者内でも初めての試みであったことから、人数限定で実施したが、今後、さらなる広がりの可能性を感じたイベントになった。



図. ROV 製作ワークショップ

(左：組み立ての様子、右：組み立てた ROV を運河に運び操縦体験)

●海洋産業フェスタスタンプラリー&抽選会

・日時：2016年7月16日(土)～18日(祝：海の日) 各日10:00～20:00(最終日のみ19:00まで)

・実施内容：フェスタの会場を巡りながらスタンプを集め、それらを集めると抽選を行い、プレゼントを贈るイベントを実施した。スタンプカードは会場の案内図とウチワを兼ねて作成した。スタンプは、海のおしごと体験館、海洋関連企業・大学ブース、ソーラーボート体験、潜水士体験の4カ所に設置、それぞれ体験や学習をし、楽しみながらスタンプも集まる仕組みとした。スタンプラリーを設定することで、会場全体をくまなく巡る効果もあったが、一方で、夕方以降は各イベントが終了するためスタンプ置き場が変更となり、スタンプラリーが十分行えない事態も発生した。なお、プレゼントは三菱重工業長崎造船所様やオーブンハイドロ社様よりご提供いただいた。



図. スタンプラリーおよび抽選会の様子
(左・右：抽選の様子、中：スタンプラリーの様子)

海洋産業フェスタスタンプラリー

16 17 18 等の日

抽選箱

スタンプラリークリアでエントリー

■	ダイヤモンド・プリンセス模型 (1/1250)	3名様
■	ダイヤモンド・プリンセス絵皿	40名様
■	ストラップまたはキーホルダー	100名様
■	クリスタル・ハーモニートランプ	80名様
■	蛍光ペンまたはボールペン	300名様
■	消しゴム	100名様
■	ミンティア	150名様
■	ダイヤモンド・プリンセス絵葉書	3000名様

図. 準備した当選品



図. スタンプラリー用うちわ (表面)



図. スタンプラリー用うちわ（裏面）

4. 事業成果

実施した海洋産業フェスタ in Nagasaki について、設定した目標および目的に対する成果を示す。

【初期に設定した目標に対する成果】

1. 開催3日間において、のべ7,254名が長崎県美術館に入場したことが確認された。主な入場者は小学生、中学生およびその親御様となり、ターゲットとした世代に受け入れられるイベントとなった。
2. 長崎海洋大使を通して、同世代学生（高校生、大学生）向けの発信を行えた。具体的には、『海洋産業フェスタ in Nagasaki』において7月18日（祝：海の日）に、イギリスおよびデンマークの海外先進地派遣事業についての報告会を行い、80名以上の参加者があった。また、10月3日（月）には五島市立崎山中学校にて全校生徒33名に対して講演を実施した。加えて、長崎東高校が認定されているスーパーグローバルハイスクールとしての学校通信『Global Report 2016』に視察内容を掲載され、中高の全生徒1,200名に配布された。12月10日（土）には長崎県美術館で実施される予定の『日本船舶海洋工学会海洋教育フォーラム』において、海洋関係の教育を担う高等教育機関の先生らを前に視察報告を実施する予定である。
3. 新聞、テレビ等のマスメディアに関しては、テレビ露出が8回、ラジオ露出が1回、新聞露出が6回となった。
4. 今後の海洋産業人材を継続的に育成するための課題抽出については、以下3点が明らかにされた。
 - （1）長崎海洋大使のような、継続的波及が見込まれる取り組みの重要性
 - （2）短期型イベントで得られる成果の限界
 - （3）海洋産業分野への就職につながる施策の更なる検討の必要性

（1）については、今年度事業において長崎海洋大使を4名任命し、彼らが積極的に各学校や学会などで講演を行う事で、マスメディアによる継続的報道が行われると共に、時間をかけて海洋産業に関する認知を広げる役割を果たすことが確認された。今後も、同様の取組みを継続することが重要である。

（2）については、今回実施した『海洋産業フェスタ in Nagasaki』は3日間という短期的な取り組みであったことから来場者数にも限界があり、海洋産業の今と将来を伝えることに本当に貢献したか不明な部分が残った。海洋産業人材の育成にはより息の長いプロジェクトを盛り込みつつ相乗効果を狙う必要がある。

（3）については、『海洋産業フェスタ in Nagasaki』のなかに企業ブースを設け、就職先を探す高校生、大学生への情報提供も視野に入れた。しかし実際には、小学生、中

学生の親御様を中心に訪れたことから、海洋産業の情報提供としての効果はあったと言えるが、就職に直接つながるような効果は期待できない状況となった。今後、学生向けの採用活動や学校との連携なども含めた検討が必要である。

【初期に設定した目的に対する成果】

(目的1)として設定した「広く県民の方々に対し、海洋産業の現状と発展可能性を周知する」については、『海洋産業フェスタ in Nagasaki』においてのべ7,000名以上の方々およびマスメディア、インターネットメディアを通じて県民の皆様へ海洋産業の今と将来を伝えることができたことから、初期目的を達成できたと考えます。

(目的2)として設定した「小学生～大学生の世代に対し、海洋産業への興味を喚起し、近い将来の人材確保と継続的な人材育成につなげる」については、『海洋産業フェスタ in Nagasaki』および『長崎海洋大使・海外先進地派遣』から課題が浮き彫りになった。とりわけ、対象を細かく分けられない場合、主催者側の訴求ポイントがぶれるため、具体的な対象者をイメージした訴求方法が重要であることがわかった。

以下、参考として海洋産業フェスタ in Nagasaki に関するデータを添付する。

■海洋産業フェスタ ブース別 入場者数

日時	会場		講座室		アトリエ		運河ギャラリー	ソーラーボート		ROV操作		潜水士体験	
	美術館	ホール	ROV	出島塾	父兄共	体験者		父兄共	体験者	父兄共	体験者	父兄共	体験者
(くもり) 7月16日(土)	1,890人	424		0	222	77	546	185	56	118	59	254	75
(はれ) 7月17日(日)	2,778人	731		0	260	98	1002	214	102	142	71	541	164
(はれ) 7月18日(月・祝)	2,586人	657		80	191	71	865	227	103	118	59	529	155
計	7,254人	1812		80	673	246	2,413	626	261	378	189	1,324	394
				80		673			626		378		1,324

〔状況分析〕

- 美術館：7/16～18 常設館開催、7/18 県民ギャラリー絵画展開催、スタンプラリー参加者の複数回の入館有り
- ホール：16日は午前中は大勢の方で賑わったが、午後2時以降は少なかった。天候が影響されたと考える。
17日は天候に恵まれ、朝から大勢の家族連れの参加者があった。夕方5時以降の入場はほとんどなかった。
18日の朝は17日並みの賑わいだったが、徐々に落ち着いてきた。都合で撤去が早くなったブースがあり、残念だった。
- 講座室：7/16～18 ROV製作チーム会場使用、7/18 未来を語ろう！出島海洋塾開催
- 運河ギャラリー：スタンプラリー参加者及び一般通行人も含め入場者数、7/17企業ブースに関心を持った方の来場が多かった
- アトリエ：体験来場者が多く、7/17・18は1回15～20人の参加者で対応した、整理券発行
- ソーラーボート：7/16 ソーラーボートの不調があったが、一人約5～6分所要時間の為、整理券発行で対応した。7/17・18は順調に試乗会が出来た
- ROV操作：7/16 ROV不具合があり、昼からの開催となった、7/17・18 体験者以外1日30人程対応が出来なかった、整理券発行
- 潜水士体験：スタンプラリー参加者が、ほとんど参加された、父兄の記念撮影が際立っていた

〔入場者数総評〕

子供を対象としたイベントで、家族連れの来場者が主であった。詳細な入場者数ではないが、およそ2,500人程の来場者と受けとめている。スタンプラリー・体験イベントが注目を集めた。

■海洋産業フェスタ ボランティアスタッフ一覧

日程	団体	長崎県職員	長崎市職員	長崎大学やってみゆーデスク	総合科学大学	関係者知人	計
7月16日(土)		8	4	2	2	9	25
7月17日(日)		7	3	2	2	10	24
7月18日(月・祝)		6	3	2	2	6	19
計		21	10	6	6	25	68

〔臨時追加スタッフ〕

- 1.写真撮影スタッフ
 - 2.案内人スタッフ
- ※長崎大学・長崎総合科学大学のイベント従事スタッフは除く

■海洋産業フェスタ in Nagasaki 君が気になった海のおしごとはなに？ アンケート結果

3日間合計	潜水士さん	小型遊覧船船長さん	造船溶接工さん	研究員さん	漁師さん	船長さん	未来の海洋のおしごと	合計
小学生 男の子	175	7	41	57	38	53	42	413
小学生 女の子	72	31	24	99	12	24	19	281
中学生 男の子	1	0	1	8	5	0	3	18
中学生 女の子	4	1	1	8	0	1	0	15
高校生以上 男性	54	6	26	27	29	34	47	223
高校生以上 女性	100	33	22	97	26	29	55	362
合計	406	78	115	296	110	141	166	1312
7月16日(土)	潜水士さん	小型遊覧船船長さん	造船溶接工さん	研究員さん	漁師さん	船長さん	未来の海洋のおしごと	合計
小学生 男の子	31	1	12	7	10	13	4	78
小学生 女の子	8	4	3	20	4	5	3	47
中学生 男の子	0	0	0	2	1	0	0	3
中学生 女の子	0	0	1	3	0	1	0	5
高校生 男の子	0	0	0	0	0	0	0	0
高校生 女の子	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	39	5	16	32	15	19	7	133
7月17日(日)	潜水士さん	小型遊覧船船長さん	造船溶接工さん	研究員さん	漁師さん	船長さん	未来の海洋のおしごと	合計
小学生 男の子	78	3	19	21	13	25	13	172
小学生 女の子	38	16	16	36	4	10	8	128
中学生 男の子	0	0	0	2	2	0	1	5
中学生 女の子	3	0	0	2	0	0	0	5
高校生以上 男性	29	1	16	13	17	16	25	117
高校生以上 女性	52	19	15	50	14	14	24	188
合計	200	39	66	124	50	65	71	615
7月18日(月)	潜水士さん	小型遊覧船船長さん	造船溶接工さん	研究員さん	漁師さん	船長さん	未来の海洋のおしごと	合計
小学生 男の子	66	3	10	29	15	15	25	163
小学生 女の子	26	11	5	43	4	9	8	106
中学生 男の子	1	0	1	4	2	0	2	10
中学生 女の子	1	1	0	3	0	0	0	5
高校生以上 男性	25	5	10	14	12	18	22	106
高校生以上 女性	48	14	7	47	12	15	31	174
合計	167	34	33	140	45	57	88	564

※17日・18日は、高校生以上の参加者として父兄にも参加いただいた。

■海洋産業フェスタ in Nagasaki 各媒体露出状況

媒体	社名	放送日・掲載日	放送番組・紙面
テレビ	KTNテレビ長崎	平成28年6月17日(金)	みんなのニュース二部
テレビ	NHK長崎放送局	平成28年7月15日(金)	ひるみて
テレビ	NBC長崎放送	平成28年7月16日(土)	報道特集内のローカルニュース枠
テレビ	KTNテレビ長崎	平成28年7月16日(土)	みんなのニュース二部
テレビ	KTNテレビ長崎	平成28年7月19日(火)	みんなのニュース二部
テレビ	NIB長崎国際テレビ	平成28年7月16日(土)	ひるじげドン2部
テレビ	NIB長崎国際テレビ	平成28年7月16日(土)	ひるじげドン2部
テレビ	KTNテレビ長崎	平成28年7月25日(月)	みんなのニュース二部
ラジオ	NBC長崎放送	平成28年6月24日(金)	ラジオ朝刊！おはようラジオ
新聞	長崎新聞社	平成28年6月18日(土)	ローカル面
新聞	日本経済新聞社	平成28年6月18日(土)	ローカル面
新聞	読売新聞社	平成28年6月23日(木)	ローカル34面
新聞	長崎新聞社	平成28年7月10日(日)	とととって7面
新聞	長崎新聞社	平成28年7月17日(日)	ローカル面

5. 広報の実施状況

海洋産業フェスタ in Nagasaki を実施するにあたって行った広報活動について記す。表に一覧を示す。7月の実施に向け、5月下旬より地元新聞社をはじめとする報道各社に情報を提供した。また、実施一か月前には記者発表を行い、イベント趣意や実施項目の詳細を説明した。その後は、ポスターやチラシの配布、また、案内状を送付するなど、個別広報活動を行った。

表. 主な広報実施事項一覧

日時	実施事項
5月25日	・弊協議会総会にて海洋産業フェスタ in Nagasaki の実施を説明
6月17日	・海洋産業フェスタ in Nagasaki ならびに長崎海洋大使・海外先進地派遣事業の実施について長崎県庁記者クラブにて記者発表
6月30日	・ポスター/チラシ印刷完了 ・長崎市、時津町、長与町、五島市の市立小中学校ならびに私立国立小中高校へポスターならびにチラシを配布開始 (ポスター (A1 サイズ) : 300 枚、チラシ (A4 サイズ) : 52,000 枚)
7月3日	・関係者へオープニングセレモニー案内状送付
7月10日	・オープニングセレモニーならびに出島海洋塾についてニュースリリースを報道各社に送付

以下、関係資料等を添付する。



図. 6月17日記者発表の様子

●海洋産業フェスタ配布チラシ（裏面）



君の未来を体感しよう!

海洋産業フェスタ

in Nagasaki

入場無料

16日(土) 17日(日) 18日(月)

長崎県美術館

海洋産業フェスタ

1 君の未来を体感しよう!
海のおしごと体験館

日程 16日(土)・17日(日)・18日(月・海の日)
10:00~20:00(18日は10:00~19:00)

会場 2階ホール

内容 大学の現場の現場に「コーナー」を有して「おしごと」の未来のおしごとを体験しよう!

主催 長崎大学・長崎県立大学・長崎県立総合研究機構

2 ワークショップ
ペットボトル風力発電機をつくってみよう!!

日程 16日(土)・17日(日)・18日(月・海の日)
10:00~11:15・11:30~12:15・12:30~13:15・13:30~14:15

会場 2階アトリエ

対象 小学生、各回10名

主催 (イベント企画/長崎県立総合研究機構/長崎県立大学/長崎県立総合研究機構)

3 君の進路はココにある!?
海洋産業関連企業・大学ブース

日程 16日(土)・17日(日)・18日(月・海の日)
10:00~20:00(18日は10:00~18:00)

会場 運河ギャラリー

主催 長崎県立総合研究機構(長崎県立大学/OPEN-HORIZON)

4 水の中を探検しよう!
水中探査ロボット(ROV)操縦体験

日程 16日(土)・17日(日)・18日(月・海の日)
10:00~17:00(12~13時はお休み) ※雨天中止

会場 三角広場ヨコ浮きん橋付近

対象 小・中・高校生、体験人数に限りがあります。

主催 INACENT協力の長崎大学・長崎県立大学

5 海の中にもぐった気分!
潜水土体験

日程 16日(土)・17日(日)・18日(月・海の日)
10:00~17:00(12~13時はお休み) ※雨天中止

会場 運河劇場

対象 小・中・高校生、各回100名

主催 長崎県立総合研究機構(長崎県立大学/長崎県立総合研究機構)

6 夢は船長さん!
ソーラーボート試乗体験

日程 16日(土)・17日(日)・18日(月・海の日)
10:00~16:00(12~13時はお休み) ※雨天中止

会場 常盤運河

対象 小学生、各回100名

主催 長崎県立総合研究機構(長崎県立大学/長崎県立総合研究機構)

7 海の未来を語ろう!
出島海洋塾

日程 7月18日(月・海の日) 会場 2階講座室

内容 「海洋資源をロボットが調査し開発する」と題して

講師 渡 廣(長崎県立大学 長崎県立総合研究機構)

講演者プロフィール
1979年 東京大学工学部船舶工学科卒業、1979年東京大学大学院工学部研究科博士課程修了、長崎大学産業技術研究センター、産業技術センター、1992年創立、1998年長崎県立総合研究機構センター長兼任、2013年より現職、海洋資源ロボットの研究開発を中心に、フィールドロボティクスの研究を行っている、わが国海洋ロボット研究の第一人者。

長崎県立大学 長崎県立総合研究機構 長崎県立総合研究機構 長崎県立総合研究機構 長崎県立総合研究機構

会場をまわって素敵なグッズをゲットしよう!

海洋産業スタンプラリー

日程 各日先着 1000名
3日間合計 3000名

※スタンプラリー用紙は2階海のおしごと体験館入口にございます。
※雨天で屋外イベントが中止の場合、開催エリアのみの対応となる場合がございます。
※スタンプラリーは2階海のおしごと体験館出口付近で行います。
4つのエリアをまわって、4つのスタンプを集めたら、素敵な景品が当たるプレゼント!

【長崎県美術館 周辺】



〒850-0101 長崎県長崎市大町2番1号
【アクセス】 長崎駅 徒歩約10分
長崎駅西口 徒歩約10分
長崎県立総合研究機構 徒歩約10分
長崎県立大学 徒歩約10分
長崎県立総合研究機構 徒歩約10分

【丸組み内図】



1F 2F

1 2 3 4 5 6 7

※スタンプラリースタンプ取得場所 行は2階を調査するのことで、1階に降りてください

お問い合わせ 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会 TEL095-893-8251

●オープニングセレモニーについての取材依頼文書

NEWS RELEASE

取材のお願い

2016年07月吉日



報道関係者各位

君の未来を体感しよう! 海洋産業フェスタ in Nagasaki オープニングセレモニーを開催

7月16日(土) 10時より 長崎県美術館エントランスロビー

NPO 法人 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会は、今月16日(土)より18日(祝:海の日)に長崎県美術館におきまして「君の未来を体感しよう! 海洋産業フェスタ in Nagasaki」を開催いたします。本イベントは、長崎に馴染みの深い「水産業」や「造船業」に加え、五島列島を中心に始まりつつある「海洋エネルギー利用」などの最新の海洋産業をご紹介します。潜水士体験や水中探査ロボット(ROV)操縦体験など、体験型イベントも数多くあり、小学生から大人まで楽しんで頂ける内容となっています。

また、開催初日(16日(土))10時からは潜水士やROVなども登場するテープカットも準備しています。是非、ご取材下さいますようお願い申し上げます。

このイベントは、日本財団が行う、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して、人と人がつながる「海と日本プロジェクト」の一環です。

ご取材いただける場合、別紙に必要事項記入の上、7月15日(金)までにご返信くださいますようお願い申し上げます。

「君の未来を体感しよう! 海洋産業フェスタ in Nagasaki」オープニングセレモニー開催概要

- ・開催日時 : 2016年7月16日(土) 10:00~10:30(開場09:30) ※雨天時も実施
- ・場 所 : 長崎県美術館エントランスロビー
- ・受 付 : エントランスロビー入口

◆タイムスケジュール

- 09:30 開場
- 10:00 オープニングセレモニー 開会
主催者、共催者挨拶
- 10:20 潜水士・ROV を交えたテープカット
- 10:30 オープニングセレモニー 閉会
- 10:40 プレス各社様向けイベントご説明



お問い合わせ先: NPO 法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会 電話: 095-893-8251

NPO 法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会は、日本財団「海と日本プロジェクト」の助成を受けて、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して、人と人がつながることを目的として、本事業を実施しています。

●出島海洋塾についての取材依頼文書

NEWS RELEASE

取材のお願い

2016年07月吉日



報道関係者各位

君の未来を体感しよう! 海洋産業フェスタ in Nagasaki
長崎海洋大使トークイベント『海の未来を語ろう! 出島海洋塾』を開催

7月18日(祝:海の日) 14時より 長崎県美術館2階講座室

NPO法人 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会(以下、弊会)は、今月16日(土)より18日(祝:海の日)に長崎県美術館におきまして「君の未来を体感しよう! 海洋産業フェスタ in Nagasaki」を開催いたします。本イベントは、長崎に馴染みの深い「水産業」や「造船業」に加え、五島列島を中心に始まりつつある「海洋エネルギー利用」などの最新の海洋産業をご紹介します。潜水士体験や水中探査ロボット(ROV)操縦体験など、体験型イベントも数多くあり、小学生から大人まで楽しんで頂ける内容となっています。

また、開催3日目(18日(祝))14時より、今月10日より16日まで欧州先進地を訪れた長崎の高校生・大学生「長崎海洋大使」を交えたトークイベント『海の未来を語ろう! 出島海洋塾』を行います。彼ら自身が自分たちの目で見、耳で聞き、心に残ったことを紹介してもらおうと共に、当日会場に来られた方との意見交換会も行います。弊会の新たな試みである「長崎海洋大使・先進地派遣」事業について、プレス各社の皆様におかれましては、是非、ご取材下さいますようお願い申し上げます。

なお、このイベントは、日本財団が行う、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して、人と人とがつながる「海と日本プロジェクト」の一環です。

ご取材いただける場合、別紙に必要事項記入の上、7月15日(金)までにご返信くださいますようお願い申し上げます。

長崎海洋大使トークイベント『海の未来を語ろう! 出島海洋塾』開催概要

- ・開催日時 : 2016年7月18日(祝:海の日) 14:00~15:20 ※雨天時も実施
- ・場 所 : 長崎県美術館2階・講座室

◆「出島海洋塾」タイムスケジュール

- 14:00 浦環(うら たまき)先生(九州工業大学/特別教授)によるご講演
「海洋資源をロボットが調査し開発する今と明日」
- 14:50 長崎海洋大使・海外先進地視察報告
「ヨーロッパの海洋開発は見てきたバイ by 長崎海洋大使」
- 15:05 意見交換
「未来はどうなる? どうする? 長崎の海・世界の海」
- 15:20 終了

お問い合わせ先: NPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会 電話: 095-893-8251

NPO法人長崎海洋産業クラスター形成推進協議会は、日本財団「海と日本プロジェクト」の助成を受けて、次世代へ海を引き継ぐため、海を介して、人と人とがつながることを目的として、本事業を実施しています。

6. 関係者会合の実施状況

『海洋産業フェスタ in Nagasaki』を実施するにあたり、長崎海洋産業クラスター形成推進協議会の事務局数名にて頻繁に協議、情報交換、アイデア出しなどを行ったのち、広く関係者に広く集まって頂く会合を実施して意思決定をおこなっていった。事務局内部の打ち合わせについては詳細な記録は残っておらず、後者についてのみ記す。なお、広く関係者に集まって頂いた会合は、採択後顔合わせ、キックオフ、実施前確認、開催後の反省の計4回実施した。

表. 海洋産業フェスタ in Nagasaki 実施にあたっての関係者会合一覧

日時	会議内容	参加者
4月 28日	助成採択後顔合わせ MTG (アジェンダ) 1. 運営体制 2. イベント名称 3. イベント趣意 4. 広報 5. ワークショップ内容 6. シンポジウム実施 7. オープニング 8. 企業の協賛 9. 長崎海洋大使	(日本財団) 青柳様、中嶋様 (渋谷潜水工業) 渋谷様 (海洋エネルギー&漁業共生センター) 有永様 (長崎県) 森田様、石川様 (五島市) 三井様 (長崎総合科学大学) 松岡先生 (創見) 森永様 (長崎海洋産業クラスター：事務局) 高比良、大串、 松尾、木村
6月 16日	第一回キックオフ MTG (アジェンダ) 1. イベント内容ならびに会場レイアウト案 2. 記者発表内容確認 3. 広報	(日本財団) 石川様 (長崎経済研究所) 河西様、中村様 (戸田建設) 永田様 (渋谷潜水工業) 渋谷様 (日本魚場藻場研究所) 有元様 (長崎県) 末永様 (長崎市) 山田様 (長崎大学) 末田様、田頭様、堤様 (創見) 森永様 (クラスター協議会：事務局) 高比良、大串、木村
7月 8日	第二回開催前 MTG (アジェンダ) 1. 当日段取り確認 2. ボランティア運営状況の	(戸田建設) 野又様、永田様 (渋谷潜水工業) 渋谷様 (日本魚場藻場研究所) 有元様 (長崎経済研究所) 湯浅様、中村様

	<p>確認</p> <p>3. 追加広報の確認</p>	<p>(OPENHYDRO) 高様</p> <p>(長崎県) 末永様</p> <p>(長崎市) 山田様</p> <p>(創見) 森永様、押田様</p> <p>(クラスター協議会：事務局) 高比良、松尾、木村</p>
<p>7月 22日</p>	<p>第三回開催後 MTG (アジェンダ)</p> <p>1. 成果報告</p> <p>2. 反省点/課題抽出</p>	<p>(戸田建設) 永田様</p> <p>(長崎経済研究所) 湯浅様、中村様</p> <p>(長崎総合科学大学) 松岡先生</p> <p>(長崎県) 山下様</p> <p>(五島市) 三井様</p> <p>(長崎市) 山田様</p> <p>(創見) 森永様、押田様、平様</p> <p>(クラスター協議会：事務局) 高比良、大串、木村</p>

7. 具体的反省点と今後の課題

最後に、今回の『海洋産業フェスタ in Nagasaki』において得られた具体的反省点を以下に示す。これらは主に、7月22日に実施した第三回実施後 MTG にて挙げられたものである。

(事務局側からの具体的反省点および今後の課題)

- 3月応募、4月末採択、実質的にGW明けより準備開始となったため準備期間が短かった。
- 実質的には大学、県・市との連携のもと事業を行うことができたが、時間的な制約から組織体制として実行委員会形式が取れず、関係団体の主体性が十分には確保できなかった。
- 実行委員会形式ではないため、自治体の広報紙や掲示板などを十分活用できなかった。
- チラシ配布については、長崎市、五島市、時津町、長与町の小中学校および私立高校等に対して行ったが、公立高校への配布が十分できなかった。これについても実行委員会形式を取っていれば関係者との調整がもっとスムーズにいったと思われる。
- 一日の入場パターンを考慮すると、18時以降はほとんど入場者がいなかった。それを考慮すると、各日おそくとも18時までの開催で良かったと思われる。
- 実施会場については長崎県美術館であれば1Fの県民ギャラリーを使いたかったが、申し込みが前年の8月であったことから、2Fホール、講座室などを主な会場とせざるを得なかった。
- 参加者に楽しんでいただくように多くのイベントを用意することができたが、それぞれの想定参加人数に足並みが揃っていたとは言えず、とりわけ、ソーラーボート操縦体験、ROV操縦体験、ペットボトル洋上風車作成ワークショップでは参加できない人が多く出た。整理券の準備は行っていたが、配布枚数や実施スケジュールの調整、事前予約制の検討などももう少し行う必要があった。
- イベント運営においては、ボランティアに依拠する部分が多かったが、特に大学生のボランティアについては当日のみの参加ではなく、事前の企画段階から幅広く参加いただける手法を検討することで、よりイベントの意義が高まったものとする。

(その他反省点および今後の課題)

- ✓ 小学生向けイベントは盛況であったが、中高生の部分は課題が残る。今後、海洋大使事業と関連付け、また、大学生については運営に参加していただくなど検討の余地がある。大学生が運営参加することで、企業側の人々との交流を図ることも期待できる。
- ✓ 実施体制については、本年3月に締結された長崎県、長崎大学、長崎総合科学大

学、そしてクラスター協議会の連携協力協定を活かし、県や関係市、大学、クラスター協議会などで構成する実行委員会方式が適切と考える。

- ✓ ペットボトル風車づくりなどは問い合わせも多く、整理券の発行など行ったが、特に混乱もなく円滑に運営できた。
- ✓ 会場が分散して分かりにくかった面があり、受付まで辿りつかないで帰った人もいた。1Fの県民ギャラリーの確保や屋外表示の充実などが反省点である。

8. おわりに

歴史的にも、地理的にも、また現在の産業構造をみても、長崎と海は深い関りがあり、海を除いて長崎の過去と現在、そして未来を語ることはできません。

このような長崎の地で、日本財団様の助成事業である「海と日本 PROJECT」に取り組ませていただき、この報告書に示したとおり多くの成果を得ることができました。

これも偏に日本財団様はじめ長崎大学、長崎総合科学大学、長崎県、長崎市、五島市ほか協賛・出展等を頂いた企業・団体の皆様方のご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます次第です。

クラスター協議会としては、全く初めての取組みであり、至らぬ点多々ありましたが、ワークショップに参加したお子さん方の目の輝きや、ボランティアはじめスタッフの皆さん方の爽やかな汗を糧として、次年度は更により良い成果を求めて準備を進める所存です。

この事業を通じて、海に関わる人材が育ち、イノベーションが高まり、海洋関連産業や研究開発が進展していくことを心から祈念し、重ねてお礼の言葉とさせていただきます。

有り難うございました。